

NO.340
1/21

09年度 (2009年6月1日~2010年5月31日)

事業報告書

特定非営利活動法人

冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク



目次	・・・・・・・・・・	p.1
2009年度事業概要	・・・・・・・・・・	p.2
1. 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、 それを広げる事業	・・・・・・・・・・	p.3
2. 冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業	・・・・・・・・・・	p.3
3. 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業	・・・・・・・・・・	p.3
4. 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業	・・・・・・・・・・	p.3
5. 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業	・・・・・・・・・・	p.4
6. プレーリーダーの養成に係る事業	・・・・・・・・・・	p.4
7. 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業	・・・・・・・・・・	p.6
8. 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業		
指定管理事業「海岸公園冒険広場」	・・・・・・・・・・	P6
若林地産地消ショップ運営事業	・・・・・・・・・・	P6
事業実施表	・・・・・・・・	P9

2009年度（09年6月1日～10年5月31日）事業概要

当会は、2002年2月に冒険遊び場にかかわる有志が集まり、連絡会として発足した。2005年には法人格を取得し、県内で初めての常駐プレーリーダーのいる常設の遊び場を運営している。

この海岸公園冒険広場の運営は、仙台市の指定管理事業として2期目の2年目になる。プレーリーダーの統括責任者は前年度当初に交代し、その後順調に運営されている。利用状況は冒険広場もデイキャンプ場も盛況で、従来を上回る利用者を得ている。一方、休日の最混雑時には駐車希望する車両が道路に長い待ち渋滞をつくり、周辺地域に影響を与えている。計画された120台の駐車場ではとても需要に足りず、公園内の各所を臨時駐車として合計280台を確保してもこの状況である。

活動的には、例えば来園者を農作業に巻込む「冒険畑をつくろう」など、メニューが多様化し、一方、平日にバスで来園し、小学校や幼稚園が遠足や屋外体験学習の場とするなど、新たな利用も増えてきているが、公園内の利用者密度もほぼ適切な状況を考慮すれば、利用者の更なる拡大を求めるよりは、新たな施設の整備を待つべきであろう。

冒険遊び場の理念を広め、場づくりを提言し、人づくりをしていくのが、当会のミッションである。そのために、プレーリーダーの養成は急務と捉え、昨年度から他団体との共同も含めた「プレーリーダー養成講座」に取り組んでいる。子どもを遊ばせるノウハウではなく、人として子どもたちとどう向き合うかというメンタル面での研修を大事にしてきた。講師陣や参加者は、世代を超えた広がりを見せ、多角的に子どもの育つ環境を整備していける光明が見えてきたように思う。

当初の事業計画にはなかったが、若林区の要請で「若林地産地消ショップ運営事業」を受託した。区が「ふるさと雇用再生特別基金」を活用して、地域の根幹産業としての都市近郊農業の活性化を図ろうとする30ヶ月の期間限定プロジェクトで、人の集まる冒険広場が着目され、場の提供と運営母体となることが期待された。当法人の定款では、事業として「行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業」を掲げており、地域とのより緊密な連携が課題であったことから要請に応じ、9月15日付で受託した。非常勤をあわせて4人を雇用し、周辺の積極的な農家の協力を得て、公園内で週1回のショップ運営を行うほか、周辺地域のまちづくり活動等と連携した店舗を運営している。暗中模索の状態でも課題もあるが、地域の連携や、生産者と消費者の直接的なコミュニケーションの場をつくる活動として、その意義を感じつつ運営されている。

事業の拡大に伴い、現場での活動が忙しくなるにつれて、本来事業が手薄になる傾向にある。その目的達成に向けて、サポーターを含め人材を拡充する具体策を持つ必要がある。

① 子どもの育ちを支える地域活動を行なう団体や個人とのネットワークをつくり、それを広げる事業

■理事会における当会団体会員及び他団体の活動報告

6月12日、8月25日、12月12日、8月2日、4月28日

■他団体とのネットワーク

7月26日／総会后、講話（新田新一郎氏）と参加者との懇親会

10月31日／食育型ワークショップ「野外で楽しむ料理」

（主催：特定非営利活動法人せんだいファミリーサポートネットワーク）

海岸公園冒険広場を会場にして、仙台の伝統食を作って食べる。

11月22日／「みやぎの子ども健全育成のゆくえ」企画実施にあたり、20代から90台に及ぶ交流の場を設定

5月5日／泉子どもの日フェスティバル

（主催：特定非営利活動法人チャイルドラインみやぎ）

「子ども博物館を広げる会」と共同で参加。ベーゴマ体験コーナーを企画。

②冒険あそび場の活動等に関する情報の収集・ならびに提供に係る事業

■会報はらっぱ発行

2009年6月 17号 冒険遊び場が発信する安心、安全まちづくり
プレーリーダー養成講座報告

2009年9月 18号 第5回通常総会報告
プレーリーダー養成講座報告と今後の予定
各地のプレーパーク夏だより

2010年3月 19号 ちびちゃん(乳幼児)たちにも冒険遊び場！
プレーリーダー養成講座予告、報告
産直広場「ぐるぐる」オープンのお知らせ

■CANPAN（日本財団HP）、せんだい・みやぎNPOセンター情報ライブラリーに登録

■メーリングリスト参加

日本冒険遊び場づくり協会会員 ML
asobo022(グループ管理者)

■メールマガジン受信

防災教育チャレンジプランメールマガジン

みんなメルマガ（特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター）

えほめーる（EPO東北（東北環境パートナーシップオフィス）

みずねっと通信（特定非営利活動法人みず・環境ネット）

■その他、事業・イベント情報をNPO団体や、公共施設、マスコミに向けて行なっている。（チラシ配布願い、ポスター刑事依頼、情報掲載依頼）

③ 地域社会の子育て、遊びに係る調査・研究事業

■海岸公園冒険広場来園者アンケート実施により、来園者のニーズを知り、冒険遊び場開設への啓蒙とする

<調査期間> 平成21年11月～平成22年5月

<調査方法> 管理棟の一角に「冒険広場アンケート」コーナーを設置。いくつかの設問と自由記入欄を設定し、来園者の自由記入による調査を実施した。

④ 冒険あそび場づくりへの相談・支援に係る事業

■冒険遊び場の開設に向けた相談や、講師依頼等を受ける。受信した事務局と理事との連携で対応している。

■インターンシップ

山形大学よりインターンシップ生 1 名受け入れ（海岸公園冒険広場 8 月 18 日～25 日）

■後援

猫塚古墳ねこまつり（10月4日：実行委員会主催）名義後援

うれし楽し蔵 de ひなまつり（2月27日～3月3日）名義後援

⑤ 冒険あそび場の普及・啓発、及び運営に係る事業

■NPOで高校生の夏ボラ体験2009（主催：特定非営利活動法人杜の伝言板ゆるる）

①7月24日～26日 ②8月5～7日 各回3名受け入れ

【活動内容】施設清掃、ゴミ拾い、遊具点検、遊び場準備、畑作業、遊具作り、来園者対応、
公園周辺清掃 他

普通の公園とは違う雰囲気の中、活動するのは大変だったろうが、初めて会う人たちとの関係を作る
ことの難しさ、子どもを子どもとして見るのではなく、1人の人として対等に関わることの大切さを
実感してもらえたものと思う。一つ一つの遊びが関係を作るきっかけになっていたり、いつも何気な
くやっていることでも視点を変えるといろいろな意味があるということに気づいてもらいたい。

■社々かんきょうプログラム実践「出前講座」

前年度に作成した幼児対象のプログラム「色いろ発見隊～季節のカメラマン～」を、希望する団体に
提供。太白幼稚園、加茂保育所に実践指導に赴いた。

⑥ プレーリーダーの養成に係る事業

■第1回 7月26日(日)15:00～エル・ソーラ仙台研修室1

「子どもが育つまちづくり」講師：プランニング開 新田新一郎

新田氏が活動してきた30年間に逢った名人、達人の技や生き方伝統芸をたくさん子どもたちに引き合わせて
きた活動のスライドと楽しいエピソード。日本に生まれ、育っていても知らないことが沢山あること、大人だって知ら
ない事を子どもにどう伝えいか、子どもに伝えるために学ぶことの楽しさ、子どもから学ぶこと、子どもを通して感
じること、大切な何かを伝えるには「大切な何か」を一緒に体感しないと次世代に伝えていくのは難しい・・・冒険遊
び場も同じく遊びの大切さを伝えるためにできることは何かを考えさせられ、次世代に何をどう伝えるか？私たちの
課題を改めて問い直した時間となった。

■第2回 9月27日(日)13:30～東北大学萩ホール会議室

「子どもの権利条約が生きる社会をめざして」

講師：早稲田大学教授 喜多明人

（*チャイルドラインみやぎ主催講座に参加）

子どもの権利条約を日本が批准して15年がたった。しかし、子どもが巻き込まれる事件や事故は増
え続け、子どもを取り巻く状況が危惧される。子どもたちが自己肯定感を高め、自信を持って生きら
れるよう、この条約を改めて見直していきたい。

■第3回 11月22日(日)13:30～エル・ソーラ仙台大研修室

「宮城のこどもの健全育成のゆくえ」

出演：宮城県中央児童館初代館長 但木卓郎

NPO みやぎ・せんだい子どもの丘 高橋康夫

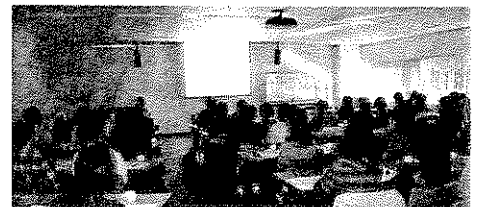
当会代表理事 大村虔一、

海岸公園プレーリーダー 岩淵健史、

西公園プレーパークの会 伊師洋香、鶴巻児童館厚生員 志賀善之

コーディネーター/子ども未来フォーラム副実行委員長 阿部俊昭

（*男女共同参画推進せんだいフォーラム2009応募企画）



官の立場で宮城の健全育成の基礎を築いた、元宮城県中央児童館館長 但木
卓郎氏と、民の立場から冒険あそび場(プレーパーク)を30年日本に活動を広
げた大村虔一氏の貴重な話を聞く機会と、現在仙台市で健全育成に携わっ
ている若手のシンポジウムで、これからの宮城県の健全育成のゆくえを改めて
考える場にしたいと企画した。

第1部：行政主導で児童健全育成を実践してきた初代宮城県中央児童館館長 但木卓郎氏の貴重な話と、元中央児童館職員の高橋康夫氏が編集した昭和30年代からの活動の写真をスライドで上映。そして、冒険遊び場30年を当NPO法人代表理事大村虔一による活動記録と宮城県内のプレーパークの現在の様子を話した。



第2部：3人の若いシンポジストがそれぞれの思う健全育成を発言した。冒険遊び場からはプレーリーダー岩淵氏、児童館から志賀氏、西公園プレーパークから伊師氏、それぞれの子どもに対しての想いや、健全育成について、これからの思いなどを語ってもらい、子ども未来フォーラム実行委員会副実行委員長・当会理事阿部俊昭氏がコーディネーターをつとめた。

<まとめ>

但木氏から「子どもを育てることは、木を育てることと同じ」という言葉があり、大村氏と但木氏、お2人の共通点はやさしさと、何もない更地から作り上げている点、まさに『健全育成とは人を育てること』であると感じた。

官民の連携が市民力を高め、やさしさは人が前向きに生きる力を得るために何より大事であるとともに、明日への希望を生み出す「秘めたる力」となるもので、「やさしさ」は「やさしさを育む」、やさしさの連鎖が人を育てることを、いつも念頭においていきたい。

■第4回 3月22日(日) 9:00~エル・ソーラ仙台大研修室

「青木将幸ファシリテーター講座」 講師：青木将幸ファシリテーター事務所所長青木将幸
今、話題のファシリテートとはなにか。会議を円滑に進め、意見を引き出しまとめていく手法を学びながら、人とかわるることの大切さを再認識した。



感想

■漠然としていた「会議」というイメージが、こういうものだ！と明確になったと感じた。苦手意識も薄れ、会議をコーディネートするという

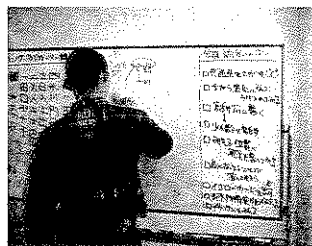


新たな視点を得たことで会議がちょっと楽しみになった。「意見を言えない」人が悪いのではない、良い雰囲気の間づくりを心がけていきたいと思う。

■「進行役」「席の作り方」「進行方法」によって、違った結果になるということをもっと実感できた。進行役になって「どこまで進めればいいのか」「どうする方法をつかったらいいか」迷いながらの進行であったけど、「自分の足りない点」に気づくことができたので、これからは生かしていきたい。もっと勉強していこうと思う。

■とにかく一度は受けたいと思っていた講座だったので、満足した。基本的な姿勢や視点、手法などをあらかじめ確認できる機会があるのは（日々に追われがちなどところがあるだけに）貴重。参加者が気づくチャンスをつくりながら、いろんな知恵やアイデアを紹介し、その中でそれぞれが発した言葉について決して否定しないところなど、受け取るものがあった。手法はあくまで手法、という姿勢も一貫していて信頼できた。

■進行が①ワークと②そのワークについての解説③質問、疑問に答えるという3段階で構成されていたので、青木さんの視点やワークのポイントがつかめ参考になった。今後は自分が進行の立場をまかされた時のヒントにしたり、その先のプレーワーカーのトレーニングプログラムを作成するとき今日の講座で体感したことを生かしていきたいと考えている。



■ファシリテーションについては、前からもっと学んでみたいと思っていた。今回の研修は具体的で明日にすぐに生かせるような内容や考え方で、きちんと自分の中に落とし込んで、失敗を重ねながらも会議の進行や子どもとの接し方に活用したいと思った。特に仕事をする上では下準備のシュミレーションスイッチの切り替えが課題だと思ったので、更に頑張っていこうと思う。

■6時間は長く思ったが、この内容ではもう少し時間が必要だと思った。具体的にファシリテーションをくり返し(2~3回)経験したかった。

⑦ 子どもの遊び・成育に関わる施策提言に係る事業

■利府町「子どもの森公園整備基本構想」

当会では、県内外に冒険遊び場を広めていこうと活動している。遊び場の創設に動きのある自治体へも積極的に施策提言を行うことにしており、利府町「子どもの森公園整備基本構想」についても、当会理事や会員が、平成19年11月から21年3月まで検討委員会委員として参加。平成21年3月には委員会でまとめた意見を町長に「答申書」として提出した。その中で①遊びの必要性②自分の責任で自由に遊ぶ③つくり続ける公園④総工費何億円というプライスタグは不必要…と、基本的なスタンスは、利府町の子ども達が遊ぶことを大切に、自ら考え、行動し、心豊かに育つための公園づくりをめざすこととした。この計画の実現のため、町民とのパートナーシップをさらに強め、積極的かつ効果的に、今後予定される設計や施設設備の中で十分活かされるよう希望する。町長のマニフェストとして22年度からの次世代育成プランにも「子どもの森」を作るという文言が明記された。が、種々の事情でこの構想は保留になっている。その間委員会の委員長と検討委員会のメンバーとで現場の草刈りや1日プレーパークをして動こうと話しており、より良い展開が期待される。

■子どもの「遊び」と「学び」サポーター養成講座（利府町教育委員会主催）

当会が、利府町と文科省をつなぐ支援をした結果、実現した講座のうち町民以外も参加できるオープン講座「子どもはどう変わったのか」講師：東京成徳大学子ども学部長 深谷昌志
12月26日(土)13:30～15:00 利府町公民館文化ホール

⑧ 行政との協働事業を含む先駆的、実験的なまちづくりや地域づくりの推進に係る事業

■指定管理（海岸公園冒険広場）

平成21年度は、当共同体が指定管理者となって5年目、2期目の2年目となる。本年度も、行政・地域・NPO・企業の連携によって貴重な公共空間を守り育てていった。

これまで最も多くの来園者が訪れていたゴールデンウィーク・秋の芋煮会シーズンのほかに夏期の利用が増え、過去最多だった昨年も上まわる来園者数・デイキャンプ場利用数となった。また、自主事業の実施などにも合わせ、公園サポーター等ボランティアの参加が増えると共に、新たな地域とのつながりも生まれてきている。地元の町内会、学校、授産施設、行政各機関等から構成する運営委員会も引き続き開催し、公園の運営・管理に関する意見を聞いて公園の運営に活かした。小学校・幼稚園・保育園・各団体の遠足や総合学習・研修等でも、公園活用の幅がひろがっている。東六郷小学校・荒浜小学校の交流事業の会場としての利用や、荒浜小学校1年生による「朝顔物語」（緑のカーテン事業）など、隣接する学校との連携・協力には特に力を入れた。

本年度も、本公園の最大の特色である「冒険遊び場」においては、やりたいことを自由にできる環境づくりに努めた。自由に遊ぶことを通して子どもたちが自ら考え創造できる場を提供すると共に、子どもの育ちにとっての「遊び」の重要性を大人に伝える場としての意義も大きくなってきている。「自分の責任で自由に遊ぶ」の理念にもとづく過保護で過剰な管理を行わない方針や「来園者が自ら参加できる公園づくり」の考え方は公園の運営にも活かされ、利用しやすく、再来園したいと思える公園の実現につながられていると考えている。公園利用の様子からも、人・場所への考え方に大きな変化が見られるようになってきたと感じている。

自主事業は、引き続き「子育て支援」や「環境教育」などの分野から広く公園を捉え、公園から発信する事業を実施していることで、多面的な公園運営・あり方を検証することとなった。平成21年度は特に地域連携を重視し積極的に地域の人たちの知恵と力を得て事業を行うことができた。

平成20年度に地元農家の協力で実験的に始めた“お店屋さん体験”のできる「ぼうひろ市場」を冒険遊び場に移し期間を延長するなどして行った。また、ひな祭りでは「粋々まちなかプロジェクト」と協働で東六郷幼児学園の「ひなまつり」手作り作品を展示し来園者との交流を深めた。また、区内の市民センター・若林区まちづくり推進課等と連携し「若林東部水辺“堀おこし”事業」の実施にも積極的に協力している。これらは、貴重な体験の場所であると共に地域のつながりを大きくひろげるものとなった。

冒険遊び場の様子 —プレーリーダー日誌から—

冒険遊び場には、プレーリーダーがいます。

— 自由な遊び場の確保のため、冒険遊び場にはプレーリーダーが常駐しています。子どもが「おもしろそう」「やりたい」と思える場をつくり見守っています。「こんなことをしたい！」など、プレーリーダーにいつでも声をかけてください。常に変化し続ける公園を、皆さん一緒につくっていきましょう。
海岸公園冒険広場・リーフレットより

※冒険遊び場で重要な役割を果たすプレーリーダー。以下はそのプレーリーダーの考え方や動きが見えるエピソードをプレーリーダー日誌より抜粋。

■遊び心を誘い出す～遊び場をデザインする

ここ数日、常連たちと角材を削って丸くしていたところ、来園者の親子2組が紙やすりを持参し、自分たちもやりたいと声をかけてきた。一緒にナイフで削り、紙やすりでつるつるにして帰っていった。木工は木を切ったり釘を打ったりするだけではないということを知ってもらうために仕掛けていたところ、その面白さがうまく伝わったと思う。やりたいことを自分で準備して遊びに来る来園者は少しずつ増えてきている。様々な遊びを仕掛けて遊びの幅を広げていき、「ぼうひろはこんなこともできるのだ」ということを多くの来園者に伝えていきたい。



■気持ちを受け止める～気持ちを翻訳する

今日は一日雨がふっていた。来園者は常連が数人来ているだけだった。学校でのことや友達のことなどを色々と話した。今までとは全然違う環境の中で色々と抱え込むものが大きくなって来ているらしい。吐き出せるものを吐き出して少しは楽になってくれているといい。こんな時間は大事にしていきたい。

今日は、幼児を連れた親子のグループが多く見られ、子どもたちは、遊具や小屋、砂場などで遊びと遊んでいる様子だった。何にでも興味を持つ年頃なのか、プレーリーダーハウス内に置いてあるものを次々手にとってみたり、一緒に遊ぼうと声をかけてきたり、泥団子をつくっているのを見て欲しがったり、やってみたがったり…と様々な動きがみられた。そんなわが子が気になり止めてまわる親もいたので、子どもが「やりたい！」と思っている感覚をわかってもらおうと、泥団子づくりと一緒にしようとその親自身を誘った。

デキナイ！ダメ！ヤメナサイ！と禁止するのではなく、子どもがおもしろそう！やってみたい！と思う感覚を受け入れるには、場所や時間を共有するのが一番効果的だ。そうしたプロセスを経て、冒険広場の「ゆるやかに見守っていく姿勢」が多くの人達に伝わっていったらと考えている。

■若林地産地消ショップ運営事業

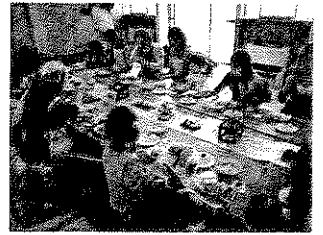
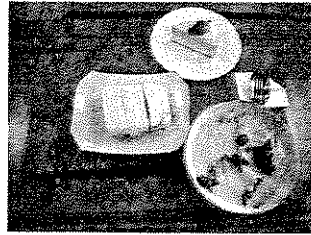
2009年9月15日に若林区と締結した「若林地産地消ショップ運営事業」は、ふるさと雇用再生特別基金で雇用した職員を中心に、六郷・七郷地区でとれた野菜や米などの紹介と販売を通して、地域を活性化するという事業である。販売活動の他に食育を視野に入れ、地元産品を使った料理教室やもちつきなどのイベントの企画もしている。海岸公園冒険広場内でのテント販売を基本にしながら、販路を拡大し生産者と消費者のつなぎ役を担っていく。



2月14日(日) 於若林区中央市民センター

「仙台野菜でつくる おやこdeクッキング」 参加者：9世帯 19人

講師：仙台市地域活動栄養士会 荒木ひさ江 さん



★有機米で押し寿司つくる～★イチゴのムースケーキ★若林区内で採れた野菜のクリーム煮
感想(アンケートより)

- ・とてもおいしく出来上がって楽しかったです。
- ・とても楽しかったです。4歳の未就園児をスタッフの方がみていたので、おかげ様で上の子とお料理教室に参加することができました。ありがとうございました。ほうひろの芋煮会にも参加したのですが、スタッフの皆様の暖かい心づかいは、感謝感謝です。3月末に主人の転勤により、引越すことになりそうなので、もう参加できなくなるかもしれないです。残念です。
- ・雪菜は、おひたし煮ひたしだけでしたが、色もよく残っていてとてもおいしかったです。ありがとうございます。
- ・ムースケーキがかたまらなかったけど、味はおいしかったです。今日のメニューをぜひひなまつりに作りたいと思います。
- ・子どもが途中でぐずってしまい、集中できなかったけど、心だんあまり食べない子どもがたのしそうに食べてくれていたので、参加して良かったと思います。
- ・時間がかりましたが、普段作らないものを教えて頂き、楽しかったです。半分以上は子どもたちが調理をがんばったので良かったです。

地元産の野菜を使った「おやこdeクッキング」が14日、仙台市若林区中央市民センターで開かれた。

仙台野菜をおいしく 料理教室 親子で挑戦



料理は初めてという子どもも多かったが、材料の六郷・七郷地区の生産を切ったり、すし飯と具者が提供した。

押しずし作りの手順を説明する講師の荒木ひさ江さん(右) 〓仙台市若林区中央市民センター

NPO法人「冒険あそび場」さんだ。みやぎネットワーク」が主催した。仙台市地域活動栄養士会の荒木ひさ江さんを講師に、親子19人が、押しずし、仙台野菜のミルクスープ、イチゴのムースケーキに挑戦した。

料理教室は、ひな祭りのおちそうを親子で作る機会が減っていることから企画された。食べごろを迎えた雪菜、玉ねぎ、ニンジンなどは、若林区の六郷・七郷地区の生産者を交互に重ねたりといった難しい作業に取り組んだ。南小泉小3年の小沢弓さん(9)は「押しずしは初めて見た。すしの材料を型に詰めるのは難しかったけれど、家でお母さんと作ってみたい」と話していた。

2015年2月14日 仙台新聞 産経新聞

特定非営利活動法人 冒険あそび場—せんだい・みやぎネットワーク

2009年度 特定非営利活動に係る事業会計財産目録

2010年5月31日現在

特定非営利活動法人 冒険あそび場—せんだい・みやぎネットワーク

科 目		金額(単位:円)		
I 資産の部				
1 流動資産				
現金手元在高	海岸公園冒険広場	252,230		
現金手元在高	冒険あそび場ネット	137,247		
現金手元残高	地産地消ショップ運営事業	18,128		
普通預金	七十七銀行 仙台市役所支店 537643	2,432,120		
同	同 同 5307821	67,866		
同	同 宮城町支店 9077014	52,682		
同	同 名掛丁支店 5902878	2,144,740		
同	同 仙台市役所支店 9070982	16,192,884		
未収金	自販機還元金	234,912		
前払金	会議会場費	4,500		
仮払金				
流動資産合計			21,537,309	
2 固定資産 日東ハイツ		90,000		
固定資産合計			90,000	
資産合計				21,627,309
II 負債の部				
1 流動負債				
未払金	電話代5月分、外注費	237,834		
前受金	会費、事業費	17,764,500		
流動負債合計			18,002,334	
2 固定負債				
固定負債合計			0	
負債合計				18,002,334
正味財産				3,624,975

上記は当法人の財産目録に相違ないことを証明します

2010年7月10日作成

特定非営利活動法人冒険あそび場—せんだい・みやぎネットワーク

平成 21 年度 特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

平成 22 年 5 月 31 日 現在

特定非営利活動法人冒険あそび場一せんだい・みやぎネットワーク

科 目	金 額 (単位:円)		科 目	金 額 (単位:円)	
I 資産の部			II 負債の部		
1 流動資産			1 流動負債		
現金及び預金	21,297,897		未払金	237,834	
未収金	234,912		前受金	17,764,500	
前払金	4,500		流動負債合計		18,002,334
敷金	90,000				
流動資産合計		21,627,309	2 固定負債		
			負債合計		18,002,334
2 固定資産			III 正味財産の部		
			前期繰越正味財産	3,268,196	
			当期正味財産増加額	356,779	
			正味財産合計		3,624,975
資産合計		21,627,309	負債及び正味財産合計		21,627,309

【第2号議案】特定非営利活動法人冒険あそび場-せんだい・みやぎネットワーク

2009年度収支決算書(案)

2009年度(2009年6月1日から2010年5月31日)

科 目	2009年度予算額	2009年度決算額	増 減	備 考
I 経常収入の部				
1 会費収入	237,000	109,000	-128,000	
正会員会費収入	80,000	66,000	-14,000	2,000円×29人、8000円×1人
賛助会員会費収入	140,000	32,000	-108,000	2,000円×16口
団体会員会費収入	17,000	11,000	-6,000	2,000円×3団体、5,000円×1団体
2 事業収入	25,513,000	36,980,222	11,467,222	
事業収入	23,313,000	34,649,404	11,336,404	指定管理料、助成金、参加費
他事業収入	2,200,000	2,330,818	130,818	販売(自販機、炭、薪、アイスクリーム) 若林地産地消シヨップ運営事業
助成金収入				
3 寄付金収入	200,000	51,245	-148,755	
4 雑収入	0	5,969	5,969	
受け取り利息	0	1,880	1,880	銀行利息
雑収入	0	4,089	4,089	還付金、他団体よりリーフレット代
経常収入合計	25,950,000	37,146,436	11,196,436	
II 経常支出の部				
2009年度予算額	22,345,000	33,047,341	10,702,341	
1 事業費	10,000,000	9,505,644	-494,356	海岸公園職員5人、アルバイト
給料手当	1,050,000	1,424,323	374,323	社会保険、労働保険、雇用保険、厚生年金
法定福利費	50,000	21,243	-28,757	交流会、健康診断料
福利厚生費	150,000	126,734	-23,266	会議茶集代、講師昼食代
会議費	5,300,000	5,115,865	-184,135	警備、各種点検、清掃、植栽、修繕費
外注費	860,000	675,957	-184,043	出張旅費、海岸公園職員・担当理事通勤交通費
旅費交通費	250,000	256,066	6,066	電話、インターネット、ドメイン、切手、はがき
通信費	650,000	369,870	-280,130	公園トイレトベーパー、冒険広場材料代
消耗品費	100,000	94,785	-5,215	公園事務用品
事務消耗品費	70,000	88,250	18,250	ドラム缶加工修理、プリンター修理
修繕費	120,000	134,995	14,995	コピー代、紙代、プリンターインク代
印刷費	2,150,000	2,183,463	33,463	公園電気代、水道代
水道光熱費	20,000	33,000	13,000	車両借上げ
リース料	80,000	80,161	161	施設賠償責任保険、レク保険
保険料	130,000	166,666	36,666	冒険広場自主事業講師料、ネット事業講師料
諸謝金	700,000	719,600	19,600	消費税
租税公課	100,000	218,135	118,135	炭・薪・釘・ペーパー
仕入れ費用	12,000	12,650	650	振り込み手数料
手数料	150,000	11,396,993	11,246,993	若林地産地消シヨップ事業
ネット事業支出	10,000	12,000	2,000	自販機・自主事業時公園使用料
地代家賃	55,000	53,991	-1,009	新聞購読料
新聞図書費	300,000	352,750	52,750	リーフレット印刷代
広告宣伝費	10,000	0	-10,000	
研修費	28,000	4,200	-23,800	協力謝礼
雑費	3,605,000	3,742,316	137,316	
2 管理費	1,850,000	1,836,662	-13,338	ネット職員3人分
給料手当	60,000	330,302	270,302	事務所事務用品、パソコン2台、プリンター2台
事務消耗費	30,000	4,343	-25,657	総会室料、理事会の会議茶集代
会議費	180,000	169,740	-10,260	理事会交通費、駐車料、ネット職員通勤交通費
旅費交通費	150,000	165,548	15,548	事務所電話代、インターネット、切手、はがき
通信費	50,000	8,690	-41,310	事務所衛生用品
消耗品費	50,000	14,029	-35,971	事務所コピー代、紙代、プリンターインク代
印刷費	80,000	82,337	2,337	事務所電気代、水道代、ガス代
水道光熱費	80,000	76,860	-3,140	電話リース
リース料	120,000	121,200	1,200	県市民税、法人税
租税公課	10,000	10,605	605	振り込み手数料
手数料	540,000	540,000	0	家賃45,000×12ヶ月
地代家賃	5,000	0	-5,000	
新聞図書費	400,000	382,000	-18,000	会計・税理委託金、他団体への会費、生花代、
雑費	25,950,000	36,789,657	10,839,657	
経常支出合計	25,950,000	36,789,657	10,839,657	
経常収支差額	0	356,779	356,779	